

(様式2)

令和4年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
453	川崎市立橋高等学校定時制	高井 健次

学校教育目標	学校経営の重点目標	今年度の重点目標
真理と正義とを愛し、互いに敬愛の誠を尽くし、勤労と責任を重んじ、自主的精神に満ちた心身共に健康な平和国家社会の形成者の育成 1 知性と品性を高め豊かな情操の育成に努める 2 協同友愛 3 自治の精神の確立 4 勤労愛好の習慣の体得	1 課題解決力を育てる教科指導 2 進路を見据えた教育活動等の指導 3 豊かな心で社会貢献できる力の育成 4 魅力ある学校づくり	○基礎・基本の定着に基づく応用力・課題解決力及び自己学習力の育成 ○生徒の個性を尊重した進路指導・生徒指導・学校行事、特別活動指導の充実及び生徒の主体性の育成 ○人権尊重教育・道徳教育・共生共育等の推進と共に、キャリア教育の推進により、豊かな心と自己実現できる力の育成 ○保護者・地域へ開かれた、信頼される活力あふれる学校づくり

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 教育課程・学習指導	◎定期考査前や指導日以外でも、必要に応じて一人の生徒が複数の科目の補習を受けやすいように、個別指導の充実を行った。 ◎支援が必要な生徒に対しては個別の支援計画を作成するだけでなく、状況の変化に応じ見直し、生徒の状況に合った適切な支援を行った。 ◎支援が必要な生徒に対して、支援教育サポーターによる直接の支援や巡回相談指導員の教員へのアドバイスなど適切な支援の協力を依頼した。 ◎三修制の科目である教養特講については、継続して学習方法を検討し、各種検定等の合格を目指すだけでなく、各教科の学習も取り入れていくように努めた。 ◎今年度の1年生から導入された新教育課程編成について、教科ごとに昨年度検討・作成した学習指導計画に基づき授業実践を行った。	☆定期考査前には欠席等により学習の遅れている生徒に対する補習、考査後には成績不良の生徒への補習等を行った。これから補習を行いやすい環境づくりに努める。 ☆特に支援が必要な生徒に的を絞って、当該学年を中心に教科担任とも連携しより良い支援に努めた。巡回相談では指導のアドバイスをいただいた。何らかの支援が必要な生徒が年々増えている。 ☆今年度も定期的に「教養科担当者会」を行い、情報交換や、適切な指導が行えるように討議を行った。各種検定等の学習以外にも個々の学力や進路希望に応じた学習指導を少しずつ取り入れられた。 ☆特に1年生の新教育課程に基づいた授業の実践については、ほぼ計画通りに行えたが、評価方法も含めてしっかりと検証する必要がある。	◎個に応じた学習指導が充実するように、学級担任を窓口として各教科・科目の指導日等の機会を計画的に行えるようにしていく。 ◎今後も支援が必要な生徒については、個々の指導計画を作成し、全教員間で共通認識を持ち指導に努めていく。 ◎特別な支援が必要な生徒については、具体的な指導方法について支援教育サポーターに協力を依頼し協力を仰いでいく。 ◎「教養科担当者会」において、三修制の科目である教養特講がより充実したものになるように、引き続き内容や形態について検討する必要がある。また、生徒の要望をしっかりと聞くことを心がける。 ◎各教科において、今後も定期的に新学習指導要領に関する研修・研究を行い、新教育課程に沿った授業実践の計画を立てていく。
2 生徒指導	◎職員会議等、教員が定期的集まる機会を用いて、生徒指導に対する姿勢についての共通理解を図るとともに、指導方法についての情報交換やその後の指導経過等についての情報共有を行った。 ◎新入生のオリエンテーションの中で、携帯電話・スマートフォンの使用に関する指導についての時間を設けた。 ◎生徒会活動は、生徒が主体となって立案、計画、運営することが大切であるが、そのために、教員が生徒会役員をサポートし、生徒会を盛り上げる手助けを行った。 ◎日常的な相談だけでなく、定期的に行われている個人面談や教育相談で得られた情報について学年を中心に情報共有し、早期に問題を確認し、迅速に対応できるように継続的に取り組んだ。また、保護者との連携にも継続的に努めた。	☆定期的な学年打合せや職員会議等において、教員間での情報交換を行い指導の徹底に努めた。しかし、校務分掌や教科等の会議においては情報共有が徹底していない場合もあった。 ☆新入生については、入学式後に携帯電話・スマートフォンのネットへの書き込み、画像や動画の配信マナーについて注意喚起を強く行い効果があったが、上級生でネット関係のトラブルが少なからずあった。 ☆生徒会活動は、集会や行事を通して、主体性・自主性の向上が見受けられた。また、地域ボランティア清掃は年間3回を予定し、2回実施できたが、参加する生徒を更に増やしたい。 ☆個人面談や教育相談の内容、学校生活アンケートの結果を学年会等で情報共有し迅速に対応した。また必要に応じて保護者とも連携して対応に当たることができた。	◎教員間での指導に対する姿勢の徹底を図り、継続していく。些細なことでも、それぞれの部署で情報共有に努める。 ◎新入生にはもちろん、上級生も含め学校全体で、携帯電話・スマートフォンについては、情報モラル教育を含め指導の徹底を今後も図る。 ◎より一層、生徒の主体性や自主的なリーダーシップの育成が継続できるよう、前生徒会担当者から指導内容や指導方法を後任に引き継いでもらう。教員も学校行事を盛り上げるために様々な方法で生徒のサポート方法を日々考える。 ◎今後も日常的な相談や定期的な面談、学校生活アンケート等を行うことで早期に問題を確認・認知し、迅速に対応できるように継続して取り組む。また、保護者との連携も継続して行うよう努める。
3 進路指導	◎キャリア教育においては、様々な考えをもつ生徒一人ひとりに対して寄り添い、根気よくコミュニケーションをとりながら指導を行った。 ◎キャリア教育におけるプログラムについては、過去の実績を踏まえ、各学年の担任の意見も反映しながら、適切な内容を行った。 ◎職業体験については、今まで実施してきた職業に限らず、様々な職業体験ができるように受入企業を増やすことに努めた。 ◎限られた時間の中であったが、3修制(ジャンプアッププログラム)のプログラムに、キャリア学習・進路学習を組み込むことについて検討しながら少しずつ取り入れた。 ◎様々な考えの生徒がいる中で、進学先合格後や就職内定後に進路変更することがないように、生徒ならびに保護者にも確認を取りながら慎重に進路決定を進めた。	☆進路先がなかなか決まらない生徒に対して、始業前や放課後等に一緒に求人情報を調べたり、履歴書や自己推薦書等の記入について時間をかけて対話しながら進路指導を進めた。 ☆全校生徒を対象に行うキャリア教育講演会については、昨年度のアンケート結果も参考にして、各学年の担任と検討し、新しい内容のものを取り入れた。 ☆職業体験については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、新たな職業体験の計画は立てられなかった。 ☆昨年度に続き、3修制の履修者の卒業学年(3学年)の生徒に対して、7月からは進路対策として面接指導などを行った。昨年度よりも指導の時間と内容を増やした。 ☆進学先合格後や就職内定後の進路変更がないように、進路指導については三者面談も含め慎重に行った。	◎キャリア教育では、生徒の個性を重視しながら寄り添い、根気よくコミュニケーションを取りながら指導していく。 ◎キャリア教育におけるプログラムについては、生徒のアンケートや過去の実績を踏まえながら、各学年の担任とも相談し、今後も適切なものを取り入れていく。 ◎職業体験については、生徒にとって有益なものとなるように、新たな体験内容も含め検討し実施に努める。 ◎3修制(ジャンプアッププログラム)は、プログラムにキャリア学習・進路学習の充実が図れるような新しい学習内容を組み込むことを考える。 ◎進学先に合格しながら入学を辞退するようなことがないように、卒業予定の生徒に対しては三者面談も含め、より慎重に進路指導を行っていく。

4	安全管理	<p>◎防災訓練については、夜の時間帯である定時制高校の活動時を前提とし、実際と同様な状況を想定した訓練を2回計画・実施した。</p> <p>◎昨年度実施した研修会・講習会については、どの講演会も安全・安心に学校生活を送るために必要なものであり、今年度も右記の各種講演会を開催した。昨年度実施できなかった「携帯電話・スマートフォンによる情報発信への注意喚起」につながる内容については、今年度「情報モラル講演会」として実施した。</p>	<p>◎今後も防災訓練の避難時では、教室・廊下などの照明は消すなど、実際にできるだけ近づけ、臨場感を持たせた状況で実施していく。</p> <p>◎防災訓練の実施については、前もって方法や日時を全日制管理職と確認しておく。</p> <p>◎災害時の生徒帰宅方法は今後も年度当初にしっかりと確認し、生徒自身にも意識を持ってもらうよう努める。</p> <p>◎今年度実施した研修会・講演会について、必要なものは繰り返し開催する。SNSのトラブルは大きな問題に発展することも多く、講演会だけでなく普段から徹底した指導を行う。</p> <p>◎それぞれの講演会の実施時期について、内容に照らし最も効果的な時期を今後も再確認していく。</p>
5	組織運営	<p>◎キャリア教育委員会では、令和2年度に本校で作成した「キャリア在り方生き方教育全体計画」を基に、必要に応じて改善しながら各学年だけではなく、本校としてのキャリア教育の確立を目指した。</p> <p>◎新学習指導要領に対応した新教育課程の実施が1年生から始まった。昨年度から計画を行ってきた具体的な各科目の内容について、授業の中で取り扱っていく。</p>	<p>◎中学校訪問を行い、本校の教育活動の特色を理解してもらうことが必要であるので、回数や内容についてより効果的、効率的な方法を検討する。また、配布資料もよりわかりやすいように編集する。</p> <p>◎ホームページをより見やすく、内容も充実させて出来るだけ頻繁に更新する。</p> <p>◎限られた時間ではあるが、地域貢献活動を今後も続けていく。</p> <p>◎今後に向けて近隣商店街の方々や、近隣地域住民の方々との交流について、文化祭や授業公開日等の機会等を活用してより多くの方々との交流を図ることができないか検討する。</p>
6	保護者・地域・住民等との連携	<p>◎継続して、中学校訪問を行い本校を理解してもらうことに努める。また、ゆうゆう広場に通う生徒や教職員、関係者にも丁寧な説明を行う。</p> <p>◎更にホームページの更新回数を増やし情報配信を積極的に行うとともに、配信内容についても保護者が定期的に関覧するようになるように検討していく。</p> <p>◎昨年度から継続して、近隣商店街の方々や、近隣地域住民の方々との交流について、文化祭や授業公開日等の機会等を活用してより多くの方々との交流を図ることができないか検討を行った。</p>	<p>◎中学校説明会の前に市内中学校訪問を行い、クラス用、個人用に本校資料を持参し、学校の特色の情宣に努めた。なお、今年度もコロナ禍で中学校訪問は1回としたため、事前にも資料送付した。</p> <p>◎ホームページは更新回数を増やすとともに、内容の充実にも努めた。</p> <p>◎ボランティア清掃活動を3回計画で2回実施した。(1回は雨天中止)</p> <p>◎今年度はスポーツ大会と文化祭(ものづくり体験)が実施できたが、入場は保護者とその家族だけに限定した。授業公開については中学生、高校中退者等とその保護者のみ、学校説明会と同じ日に2回実施した。</p>

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて
<p>◎生徒・保護者の学校評価アンケートについて、各項目で昨年よりも肯定意見が増加している。今後も生徒一人一人に寄り添う努力を続けてもらいたい。</p> <p>◎今後も評価方法(指導と評価の一体化)に関する研修を積み重ね、教科ごとに評価の在り方について、より明確にしてほしい。</p> <p>◎支援が必要な生徒への対応として、これまで以上に支援教育サポーターや巡回相談指導員と連携を密にし、保護者の理解を得ながら支援体制を充実させていただきたい。必要に応じて外部機関との連携も図ってほしい。</p> <p>◎地域の方々との交流は推進してほしい。</p> <p>◎心肺蘇生法など生徒も参加できる研修会は、緊急時生徒だけの場合もあるので、今後も多くの生徒が参加できるとよい。</p> <p>◎生徒数が減少傾向にある中で、部活動の加入率が高く、複数の部活動が全国大会出場を果たすなど大変頑張っている。</p>	<p>◎今年度の3修制(ジャンプアッププログラム)での卒業生は9名であった。これは現3年生在籍数29名のうち、31%という数字である。今後もこの制度の充実に向け努力していきたい。定着率向上の方策の検討や新入生へのオリエンテーションを今後も充実させていきたい。</p> <p>◎今年度も様々な事情により何らかの支援が必要な生徒について、学年を中心に放課後等を使って特別な指導を行った。このような「支援が必要な生徒」の増加が予測される中、学校全体でどのような対応が出来るのか検討するとともに、外部機関との連携も含め、今後の支援を充実させていくことが課題の一つとなっている。</p> <p>◎学習の進捗が遅れがちな生徒に対する指導体制づくりも継続した課題として残っている。</p> <p>◎今年度、新学習指導要領に則った新教育課程編成の実施が1年生から始まった。1年間を振り返り、学習内容等、改善が必要な部分について具体的な改善に努めていく。</p> <p>◎保護者・地域住民の方々との連携については、地域ボランティア清掃以外にも文化祭や公開授業等の行事を通して行いたい。</p> <p>◎今年度は「心肺蘇生法(AED)研修会」の継続実施と、「食物アレルギー(エビペン使用方法)研修会」を実施できた。また、今年度は生徒会役員を中心に、一部の生徒も研修会に参加させることができた。今後も毎年実施していきたい。</p> <p>◎来年度も、さらなる生徒の図書館利用の促進を図りたい。各教科の授業や、進路学習など図書館利用を推進していきたい。</p> <p>◎今年度は昨年度と異なり、部活動の各種大会が概ね実施でき、まだ活動制限が多いものの、部活動を盛り上げることができた。運動部においては3つの部活動(バレーボール、陸上、軟式野球)が昨年度に続き全国大会出場を果たした。これからも学校全体の部活動への取り組みを盛んにしていきたい。</p> <p>◎学校教育の根幹である授業に対しては継続して教職員全員がより研鑽を積み、わかりやすく、主体的・対話的で深い学びにつなげることが出来るような授業を心がけたい。</p>